

街とつながる開かれた新市庁舎

新しい市庁舎が建てられる北仲通南地区は、関内・関外地区とみなとみらい21地区の結節点にあたり、横浜の都心部のまちづくりを進める上で重要な地区です。新しい市庁舎には、市民の皆さんや国内外から訪れる来街者の皆さんが集い、楽しみ、活動し、街を回遊するきっかけを作る役割が期待されます。にぎわいと憩い、おもてなしの場となる低層部には、市民協働スペースや商業機能、アトリウム(屋根付き広場)、水辺の憩い空間を整備することによって、人と人、自然、街をつなげる開かれた市庁舎を目指します。

☎ 総務局管理課 ☎ 671-4112 ☎ 664-2501



整備予定地 北仲通南地区(中区本町6丁目)



敷地面積 約1万3,500平方メートル
階数 地上32階 地下2階(予定)
建物の高さ 約160メートル

建物の面積 (予定) (平方メートル)

専用部	行政部門	59,500	延床面積 140,500
	市会部門	9,000	
	商業機能	4,000	
共用部		52,000	
駐車場		16,000	

設計・建設費 約749億円

スケジュール (現在、事業者の選定手続を進めています)

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
発注手続					
	設計				
		先行作業	工事		
		着工 29年夏頃	しゅん工 32年1月末		32年6月末 開庁
				移転準備等	

水辺の憩い空間

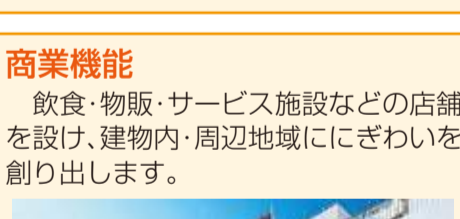
大岡川沿いには、水際線プロムナードの一環として、水辺の憩い空間を設けます。



水辺の憩い空間イメージ
(写真:長崎水辺の森公園)

回遊空間

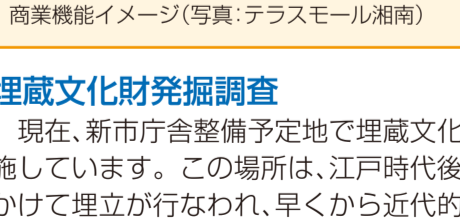
水辺の憩い空間とアトリウム(屋根付き広場)をつなぐ回遊空間を設けます。



商業機能イメージ(写真:テラスモール湘南)

商業機能

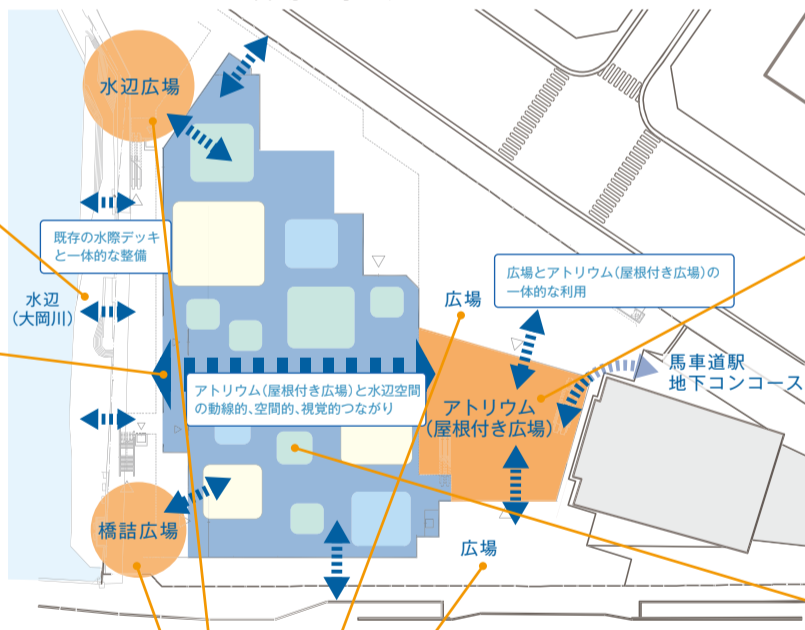
飲食・物販・サービス施設などの店舗を設け、建物内・周辺地域ににぎわいを創り出します。



商業機能イメージ(写真:テラスモール湘南)

新しい市庁舎の低層部のイメージ

低層部は、市民活動、商業、イベントスペースなど、さまざまな機能が混在する「街」のようなスペースです。オープンなつくりでさまざまな活動を呼び込み、つなげていきます。



広場

豊かな緑と、魅力ある景観に触れられる広場を設けます。

新しい市庁舎のデザインについて 新市庁舎デザインコンセプトブック

新しい市庁舎のデザインや、新しい市庁舎がまちづくりで果たす役割について、事業者・市民の皆さんと方向性を共有し、広く愛される市庁舎を実現するために、都市デザインの考え方を生かした「新市庁舎デザインコンセプトブック」を作成しました。

HP www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kanri/newtyosya/conceptbook.html

アトリウム(屋根付き広場)

みなとみらい線馬車道駅に直結する大きな吹き抜け空間であり、街への玄関口となるアトリウムは、「市民の憩いの場」、「式典・イベントスペース」、「芸術・文化」などさまざまな活動が展開される場とします。



吹き抜け空間イメージ(写真:大崎ゲートシティ)

市民協働スペース

市民の皆さんや行政による講演会、講座、シンポジウムなどができる会議スペースや展示スペースなどを設けます。

埋蔵文化財発掘調査

現在、新市庁舎整備予定地で埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。この場所は、江戸時代後期から明治時代にかけて埋立が行なわれ、早くから近代的な建築物が建てられた地域として知られています。これまでの調査では、関東大震災で倒壊(あるいは破損撤去)した瓦礫層の煉瓦などに混じって、練り歯磨きの容器の破片が出土しました。(調査主体:市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター)



発掘調査の様子



出土品の一部

HP www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kanri/newtyosya/maizoubunnkazai.html

新市庁舎整備予定地見学会を開催します

日時: 12月19日(土) 10時30分~12時、
13時30分~15時 雨天中止 小雨決行
中止のときは当日までに下記ホームページでお知らせします。
会場: 中区本町6-50-10
内容: 発掘状況を公開し、埋蔵文化財センターによる解説を行います。解説は、10時30分、11時30分、
13時30分、14時30分から10分程度実施し、
その他の時間は自由見学です。
参加方法: 当日直接会場へ来てください(事前申し込み不要・定員なし)
駐車場はありません。公共交通機関を利用してください。